奪われたシラユキの肉体

2019年5月30日

企画：fume
イラスト：fume
シナリオ：ドアノブ様

目次

1　愛しの姫
2　母の鏡
3　ピエロショー
4　簒奪
5　純潔の愛
6　支配する愛

1.　愛しの姫

（王子（視聴者）とシラユキがお城の寝室で互いを見つめながら
ベットに座っている。顔が真っ赤になってうつむきながらも、
上目遣いで王子の事をみているシラユキ。）

お、王子……。
こ、今夜もよろしくお願いいたします
その、いつものように
シラユキのことをかわいがっていただけると、
うれしいです……。
え、えへへ。
とても、緊張してしまいます……。
毎夜の事なのに、ですね。
今日こそ、世継ぎのため、
それとその……王子とのよき子を授かれるよう、
頑張りますので……。
よろしく、お願いしますね？
では、ええと、

（顔がより赤くなって、はわわわっ！という顔になるシラユキ）

キ、キスを！
しても、よろしいでしょうか？

はぁっ……ありがとうございます！
で、では、失礼して……。
抱きしめさせていただいてから……。

んっ、んちゅ、んっ……はぁ、
と、とても、心地よいです……。
もう一度、しても？

んんっ、んちゅ、くちゅ……ちゅ……。

はぁ、はぁ……
ふふふ、こんなに愛されて、シラユキはとても幸せ者です……。
きっと王子も、私を救ってくれた時から
愛してくれているのだとずっと信じています……。

んちゅ、くちゅ、んんっ！？
お、王子……んっ！　は、激しいです……
んちゅ、ちゅぷ、くちゅる……はぁ……はぁ……。

あっ……。
こ、こちらも、もう大きく……。
嬉しいです……。
私に愛を感じて、欲情してくれることが、とても……。

で、では……その、ええと……。
こちらにも、キスをしても？

で、出来る限り、ご奉仕してあげたいのです！
愛する王子のためなら、私はどんなことでも……
してあげたいのです。

どうか、こんな破廉恥な女でも、許してください……。

（同意する間）

はぁぁ！　はい！　頑張ります！
で、では、ズボンを下ろして……
よい、しょっと……。

も、もう、パンツ越しでは、収まらないほど、
熱くて、硬くて……。
はぁ、はぁ……。
で、では、脱がせてしまいますね？

よい、しょっと……。
はぁぁ……。
い、いつもながら、とても立派です。王子……。
これが私の中やお口を、温めてくれているんですね……。
とても愛おしい、愛おしい愛の象徴……。
今日も、どうか慰めてください……。

はぁむ、

（フェラ開始）

んちゅ……、ふっ、んっ、ちゅ、くちゅ……。
ふぅ〜、んっ、ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ、くちゅ、ぺろ、ちゅ、
んちゅ、はぁ、ぐちゅ……。

こうして、舌も、からぇて……。

ちゅっぱ、ちゅるるる、
ずりゅ、ちゅ、んんっ、ちゅ、くちゅる、ちゅる、
ちゅ、ちゅる、くちゅくちゅ、ちゅるるっ。はぁ……。

ますます、大きくなっていますね？嬉しいです……。
もう少し、お口で愛させてください……。

ちゅ〜ぱ、ちゅるる、くちゅるる、んちゅるるるっ
ちゅっぱちゅっぱ、くちゅるるるっ、ぐちゅるるっ。

んむぅ、んむ、んちゅ、はぁ、
お口の中に、熱くて、少ししょっぱい液が、
あふれてきています……。
王子の味……私はとても大好きです……。

はぁむ、
じゅぷじゅぷじゅぷじゅぷ、
クチュクチュクチュクチュ、ちゅぱちゅぽちゅるちゅぱ。
チュパチュパ、ピチュピチュ、
んっ、んっ、ちゅ、ちゅ。はぁんむ、
ちゅぅぅっちゅっ……
ちゅ……。はぁ、

あ、あの、王子？
わ、私ももう……
準備が整いましたので……。
その、挿れて、ください……。
今日こそ、神からの授かりものを、受け取ってみせます！
そして、頑張って王子が望むままに、
愛を、受け止めてみせます……。

で、では……お願いします……。

んんんっ！　ふ、深いぃ……。
あっ、す、少しだけ、待っていただけると……

（びっくりした表情で、体をビクっかせるシラユキ）

んんっ！あぁぁっ！
い、いきなり、激しっ！　んぁぁぁっ！
はぁ、んあぁぁ！
お、おうじ……っ！
ま、待って……っ！あぁぁっ！

だ、ダメですっ……。

わた、わたしぃっ！こんなに激しくされたらぁぁっ！

んんんんんっ！ひく！ひっひゃぅぅっ！

んぁぁぁぁぁっ！！！

（絶頂してしまうシラユキ。）

あっ、はぁ、はぁ……ま、また、私が……。

王子も、まだ、なのに……。

わ、私、今日は、もう……。

（シュンっ……という顔になるシラユキ）

ご、ごめんなさい、王子。私が不甲斐ないばかりに……。

せ、せめて添い寝だけは、させていただきたいと思います……。

あ、明日こそは！必ず……。

えっ？そんなに落ち込むなって？

……本当に、お優しいのですね……。

ありがとう。

では、おやすみなさい……。

私の、王子様……。

（右耳元寝息開始）

……すぅ、すぅ、んっ、……ふぅ、ふぅ……。

んっ……。……んぅ……。んっ……んぅ……。

……。

（フェードアウト）

2.　母の鏡

（お城の物置の整理をしているシラユキ。）

はぁ……どうして私にはもっと……。
いいえ、いつか必ず、
王子の愛を受け止めてみせます！
そのために、まずは体の力を付けなくては！
……とは言ったものの、
出来ることと言えば、掃除のお手伝いくらい……。
今、行っている物置きの整理で
果たして体の力はつくのでしょうか？
ん？なんだろう？
布がかぶってる……。
よい、しょっと……。

（布の音）

これは……お母様の鏡？どうしてここに……。

（ボォッと妖しく光り始める鏡。）

……なにか、光ってる？
まさか……お母様の、呪い？
私をまだ……呪っているの？

に、にげなきゃっ！

（発光音。激しく光り出す鏡。シラユキが金縛りにあい、身動きとれなくなる。）

……んあぁぁぁっ！！！

（シラユキの目のハイライトがだんだんなくなっていく。）

い、意識が……飛んで……いっ……ちゃうっ……。

（ここからピエリーナとシラユキの二人セリフ分け
鏡の中に黒い人影が映し出される。ニヤニヤと笑っている。
シラユキ、うつろ目で無表情、無感情。）

ピエリーナ
「フフッ！君は、シラユキだね？」

シラユキ
「……はい。そうです。」

ピエリーナ
「君はぁ、とても美しいね……嫉妬しちゃう！
だからさぁ……」

ピエリーナ
「君の体を、僕に頂戴？貸してくれるだけでいいからぁっ♪」

シラユキ
「はい……。この肉体を……。
あなたに捧げればいいのですね……」

ピエリーナ
「そうそう！いい子だねぇ～！
本当に、君のお母さんが憎むのもわかるよぉ！」

ピエリーナ
「でも、その体を貸してもらえるなら、僕も力を貸すよぉ～？」

シラユキ
「ほんとう、ですか？」

ピエリーナ
「ホントホント～！
君は王子の子供を身ごもりたいんだよねぇ～？
でも、色々な理由で、それが出来ないでいる……
そうだよねぇ～？」

シラユキ
「はい……私が、ふがいないばかりに……」

ピエリーナ
「そうだよねぇ～？でも大丈夫～♪
僕が代わりに王子とセックスしてぇ♪
子宮もお腹もいっぱいにしてあげるからねぇ～♪」

（シラユキの顔が段々歪んでいき、首を横に振る。）

シラユキ
「それは、嫌、嫌……嫌っ！」

（発光音）

ピエリーナ
「もうおそいよぉ～♪」

（鏡の中に閉じ込められているシラユキ。目の前には
不気味な笑みで笑う自分の肉体が。
肉体の中には鏡の主、ピエリーナが憑依している。）

シラユキ
「……はっ、こ、ここは？えっ？どうして私が、目の前に……
それにここって……鏡の、なか？」

ピエリーナ
「あはははははっはっ♪
こんにちは囚われのシラユキ♪
僕はピエリーナ！やっと鏡の中から出られたよぉ♪」

シラユキ
「出してっ！返してっ！私の体っ！！！」

（ニコニコ笑いながら鏡を撫でるピエリーナ）

ピエリーナ
「あぁ～よしよし泣かないでぇ？大丈夫。
ちゃんと返すよぉ？思いっきり王子と楽しんでからねぇ？
そしたら、子供だっていくらでも作ってあげられるんだよぉ？」

ピエリーナ
「キミの大切なモノぉ……奪ってあげるぅ！きゃはははっ！」

シラユキ
「やめて……王子に手を出さないで！」

（邪悪な笑みを浮かべて舌なめずりするピエリーナ。）

ピエリーナ
「大丈夫♪これぇ、君の体だからぁ！
誰も君じゃないなんて思わないよぉ♪
ちゃんと淫乱セックスして、王子と楽しくやってるから、
そこでしばらく待っててねぇ～？きゃはははははっ！！！」

シラユキ
「待って！行かないでっ！誰かっ！　誰かぁぁぁっ！！！」

（フェードアウト）

3.　ピエロショー

（ピエリーナのみ）
（王子の部屋のドアをノックするピエリーナ。
マイク正面、遠くから）

ノックノック～♪

（ドアを勢いよく開けてニコニコ笑いながらスキップして
入ってくるピエリーナ。）

こんばんは～王子様～♪

んん？どうしたのかってえ～？決まってるじゃないか～♪
セックスしに来たんだよぉ？
そんなこと、男と女なら当たり前じゃないかぁ♪

（露出度の高い、いやらしい服装のピエリーナ。）

この格好？普段と違う？
そうだよぉ♪
僕は今、大切な王子様を気持ちいい～夢の世界に連れていく、
ピエロになったんだよぉ♪
魔法の力でかって？
きゃはは♪お察しの通りだよぉ♪

シラユキちゃんに〜、
ちょ〜っとだけ、この体を貸してもらったんだぁ♪

（王子が抵抗する間）

おっと♪僕に手を出しても無駄だし、危ないよ〜？
僕にしかシラユキちゃんを助ける方法も、
そもそもどこにいるのかもわからないんだから♪

（目を細め、じっと王子を見つめるピエリーナ）

それにぃ〜？
いつもより露出もエッチ度も高い、
この体……気にならない？

いまならぁ〜♪この体全部を使ってぇ♪
普段のぎこちなくてへたくそなセックスじゃなくて、
心行くまで気持ちよくなれるんだよぉ〜？

それに、シラユキちゃんだって、王子様との子供が欲しくて
僕に体を預けたんだからさぁ〜♪

（右耳元）

やらないなんて、損だよ？きゃはは……♪

（元の位置に戻る。）

は～い♪時間切れ～♪
体を拘束させていただきます～♪

（魔法の効果音）

動けないでしょ～？魔法って便利だよねぇ～♪
僕ぅ、普段は封印されてるから使えないけど……。
体があれば、こんな風に……。
んちゅ、ちゅくちゅく……ぺろぺろ、んちゅちゅくちゅぱ……。
んはぁ♪キスもできるし、エッチもできるし……ね♪

（左耳元）

動けないままでぇ～♪
キスされるのってどんな感じ～？きゃはは♪

（元の位置に戻る。）

はいはい～♪ベッドに行きましょうね～王子さま～♪

これからたくさんエッチなことをするんだけれどぉ……。
王子さまってかな～り変態だよね～？
シラユキには見破れなかったけどね～？
僕にはわかっちゃうんだぁ♪
だってこんな風に体を拘束されて、
もしかしたら悪いことをされちゃうかもしれないのに～？
ここは……

（右耳元）

むくむくってぇ♪大きくなっちゃってるんだもんね～♪
きゃはは！情けない王子様……。

（左耳元）

変態、気持ち悪い変態ですね～？
キモイ。興奮してる？罵倒されて？
ホント変態……変態……変態♪
それじゃあ、変態にふさわしいエッチの楽しみ方を
教えてあげるねぇ～♪

（元の位置に戻る。）

はぁい！ボクのHで素敵なショーの始まりだよぉ！

……お・う・じっ！いぃっぱぁい楽しんでいってねっ！ちゅっ！

これよりお目にかけますのはぁ～？
人体交換マジックで～す♪

こうしてぇ～？
変態王子様の首に、素敵なチョークを付けてあげるとぉ～？

スリー！ツー！ワン！　ショータイム！

（一瞬のうちにピエリーナの肉体と王子の肉体が入れ替わる）
（首から下の肉体）

じゃ～ん！体が僕と入れ替わっちゃいました～♪
どうかなどうかな？首より下が女の子～！
しかも大好きなシラユキちゃんのド変態コスチューム姿～♪
違和感だらけの体……！ほら？おっぱいも、おマンコもぉ～？
普段感じることのない感覚でいっぱいだよ～♪

（右耳元、無音で囁くように）

……触ってみたい？
思いっきりもみもみしたい？おマンコくちゅくちゅしてみたい？

（左耳元、無音で囁くように）

今、王子さまは体が女の子と入れ替わったからぁ？
おマンコの感触も、おっぱいのピリピリも、
感じることが出来るんだよぉ？

（右耳元、有音）

興味ある？

（左耳元、有音）

興味あるよね？
ほら？

（両耳）

触っちゃいなよ♪

（元の位置に戻る。）

どう？どう？
王子？シラユキのおっぱい、めちゃくちゃにしていいんだよぉ？

そうそう♪おっぱいもみもみして～？感じてみて～♪
柔らかいよねぇ～♪それにとっても大きくて可愛い♪
本当はもっとたくさん弄りたかったんだもんね～？
いいんだよ～？

（右耳元）

今は全部、君のモノ……。
シラユキの体全部、君の自由……。

（左耳元）

誰に気を使わなくていいんだよ？
大好きな女の子の体を、自分で感じながら、
全部ぐちゅぐちゅにしていいんだよ？

ふふふ、すっかりおマンコもとろとろだね～♪

ねぇ？気にならない？

（左耳元、無音で囁くように）

おんなのこがどうして、あんなふうに喘いでいるのか……とか♪

（右耳元、無音で囁くように）

感じてみたくない？
女の子がどんな風に気持ちよくなってるのか……ね？
ほら？触ってみて？
熱くて、ぬるぬるしてて、中に入ると、柔らかくて、
クチュって締まる、女の子の中……。

（左耳元、有音）

ほらほら～？遠慮しないで？誰も君のことを止めないから♪
シラユキだって、知らないんだから……。

（右耳元、有音）

僕と、君だけの秘密……。ね♪

（元の位置に戻る。）

ほ〜ら？
おマンコの中を触るのってぇ……、
触られるのってぇ……っ！
こんなに気持ちいいことなんだよ〜？
シラユキが一回でばてちゃうのもわかるよね？
こんなに気持ちいいんだもん♪

（左耳元）

そんな中に、この僕の立派なもの……
入れてみたいと思わない？
入れられたら、どうなっちゃうんだろうね？
こんな熱くてゴツゴツしてて、力の象徴みたいなものから……。

（左　もっと小声で）

ぴゅ、ぴゅ……って、

（左耳元）

精液流し込まれちゃったら、どんな気持ちよさなんだろうね〜？

（元の位置に戻る。）

それじゃあ、試してみようか♪

さっきから僕がギンギンにしてるこの勃起チンポを～♪
よいしょ……バックからぁ♪
え～い♪ずぼって挿入～♪

きゃはははは！王子ぃ！？今ぁ、どんな気分！？
ねぇねぇ！女の子に犯されるなんて屈辱的ぃ？

きゃはははは！呼吸もできないくらいにがくがくしてる～♪
可愛いねぇ可愛いねぇ！
ほらほら～？これがもっと激しく出し入れされちゃうんだよ～？
もっともっと気持ちよくしてあげちゃうん……だよぉっ！

ほらぁ、ほらほらほらぁ！
ずぼずぼずぼずぼ！
ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅ！！！

んんっ！かわいい声ぇ！もっと聞かせて聞かせて！
もっと喘いでぇ！
女の子になっておかされる気持ちよさでぇ、
男だってこと……忘れるまで犯しつくしてあげるからぁ♪

おマンコえぐれるくらいにぃ！反り返ったカリでゴリゴリしてぇ、
先っちょを一気に、
……ずぼぉって奥の子宮までたたきつけてぇ！

何度も何度も！繰り返してあげるよぉ！
ほらほらぁ！イっちゃっていいんだよぉ！？
女の子の気持ちよさを堪能してぇ！

一度イったからって、許してあげないから♪
シラユキちゃんが一度しかできないような快感を、

何度も、何度も♪
繰り返し繰り返し、
ずぅっとし続けてあげるからねぇ♪

ずぼずぼ、ずぼずぼ！
ぐちゅぐちゅ、ぐちゅぐちゅ～♪

きゃはは！きゃははっ！
楽しいねぇ！おマンコずぼずぼ最高でしょ～♪

犯してやりたいおまんこを犯されるのって、
最高だよね～♪

ほら、イケ！イケメス豚！
自分の大好きな女のおマンコでイケ！

ずぼずぼずぼずぼ！
ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅ！

あぁ～！僕もイキそう！王子様の特農ザーメン出しちゃう～♪♪

イイよね？出しちゃっていいよねぇ？

おマンコ射精絶頂してみたいよね♪

行くよ～？

ずぼずぼずぼ～♪

ぐっちゅぐちゅぐちゅぐつぐちゅぐちゅ～！

でるでるでる～♪射精アクメしちゃえ～！

（射精音）

あぁぁ～♪キモチイ～～～♪♪

ドビュドビュできるのってホント最高だね～！

王子様ぁ？レイプされた気分はどうですか～？

気持ちよすぎて頭おかしくなっちゃいましたか～？

最高だよね～？ね～♪

よい、しょっと……

うわぁ～♪

王子様、寸止めされすぎて、しかも添い寝とか、

バカなことされてたせいでパンパンだったんだね～♪

とてつもない量の精液で、おマンコ真っ白～♪

これは妊娠確定！体挿げ替え種付けレイプショー、大成功ぉ！

まだまだしたりないよね～？
もっともっと、出しつくしちゃうからね～♪
ほらほら！もっと気持ちよくなりなよ！
もっと女みたいにヨガってアンアン喘げよ！

（王子の体を見てキョトンとするピエリーナ。その後、ニッコリ笑う。）

……ああ、そうか。
今は、王子様、女の子だもんね♪

きゃはははは！
それじゃあお姫様ぁ？
とことん自分のペニスに、レイプされちゃいましょうね～？
きゃはははは！きゃはははははっ！！！

4.　簒奪

（夜、お城の寝室。魔法で拘束されている王子。
ニコニコしながらはしゃいでいるピエリーナ。）

はぁい♪王子〜♪今日も素敵な夜にしようねぇ〜♪
きやはははは！すっかり落ち込んじゃってぇ〜♪
僕のほうが気持ちよくて好きな癖にぃ♪
ねぇねぇ、王子ぃ！
今日はとっても楽しいスペシャルショーだよ！
ほらぁ、観客ぅ！王子のたぁいせつな人ぉ！

（布を取る音。その中には鏡に封印されたシラユキの姿が。）

王子の大好きな人、シラユキちゃんだよぉ〜♪

（ここから二人セリフ。王子を確認し、必死で鏡を叩くシラユキ。）
（シラユキのセリフは全て左の離れた所から。）

シラユキ
「王子？王子！ご無事ですか！？」

ピエリーナ
「無事に決まってるでしょ～？
別に痛めつけたわけじゃないんだからさぁ～？」

シラユキ
「な、何を言っているの！？
早く王子を開放して、私を元に戻して！」

ピエリーナ
「んん～？でもね～？
王子は僕とのセックスのほうが気持ちいいって～♪
ね？王子～？」

（驚き、必死で呼びかけるシラユキ。）

シラユキ
「そんな……王子！そ、そいつは私じゃありません！
騙されないで！」

ピエリーナ
「そう言われてもねぇ～♪
中出しもさせてくれない女と、淫乱で誘惑してくる
エッチな女の子……どっちがいいって言われたら、
エッチなほうだよねぇ～♪ねぇ王子～♪」

ピエリーナ
「と、いうわけでねぇ？
今日はお客様をお連れしての、公開セックスをしましょ♪
ね？王子？」

シラユキ
「だ、ダメです！王子！惑わされてはいけませんっ！」

ピエリーナ
「まぁまぁお客様～？劇中はお静かに願いま～す♪
それじゃあ王子、さっそくこの淫乱マンコにぃ、
ずぼずぼしてぇ～♪」

シラユキ
「あ、あんなに大きく……そ、そんな……ダメですっ！
挿れてはダメです！……ダメ、ダメ……あぁ、あぁぁ……」

ピエリーナ
「んんん～♪とっても気持ちいい♪
ほらほら？いつもみたいに犯されたいんでしょ～？
耳から……」

（右耳で近くから囁き）

ピエリーナ
「シコ、シコ……♪シコ、シコ……♪

こうして耳からも犯されちゃったら、
おかしくなっておちんちん、すぐに爆発しちゃうよねぇ♪」

ピエリーナ
「しこ、しこしこ、しこしこしこ……
おちんちんおマンコでシコシコ……
シコシコぐちゅぐちゅ、シコシコギューギュー♪」

（左の離れた所から。）

シラユキ
「お、王子……どうして？そんなに気持ちよさそうにして……
どうして……私の、王子……なの、に……」

（右耳で近くから囁き）

ピエリーナ
「シコシコぴゅっぴゅしていいんですよ～？
えんえんとおちんちんずぼずぼしてていいんですよ～？
お客様もとても楽しそうですしねぇ～♪」

（右耳、有音）

ピエリーナ
「ほ～ら？お耳を舐め舐めしてあげましょうねぇ～♪」

ピエリーナ
「はぁむ♪くちゃ、ぺろっ、シコシコっ、くちゅくちゅ、
あぁ、ぷちゅ、コスコス、ちゅぷ、ちゅ、ぺロぺロ、レロレロ、
ちゅぅぅっ～んぱっ……。
はむっ、んっ、んっ、ちゅ、ちゅ……。
はぁんむ、レロレロレロッ、ちゅぅぅっ、んぱっ……。
んちゅ、はぁ。
ちゅぱ、ちゅぱ、んっ、くちゅ、ぺロぺロ、じゅっ、
じゅるるるっ、じゅぷ、じゅっぷ、

ちゅぱ、ちゅぷぺろ、くちゅくちゅぅ～……
ぱっ、はぁむ、んむっ
ん～っぱ、ちゅぷちゅぷ、くちゅ、ぺロぺロ、れろ～、
ちゅ、ちゅぱ
ちゅ、ちゅ、ちゅぅ、ちゅぱ……」

ピエリーナ
「んはぁ♪気持ちいいですかぁ～？
王子様がおマンコされながら耳をとろとろにされてるお顔、
お客様に大好評ですよ～？」

ピエリーナ
「はむっ、ぺろ、くちゅ、くちゃ……んっ、くちゅ
はむっ、はむはむ、ちゅるるるっ、……
ちゅぱくちゅ、ちゅぷ、はぁぁ～ん。

（左の離れた所から。）

シラユキ
「そ、そんなこと、されて……どうして？
どうして気持ちよさそうなんですか？
私より、上手いから……？
それくらい、言ってくれれば、私だって……」

（右耳、有音）

ピエリーナ
「んっ、ペロペロ、ちゅ、ちゅぷ、ちゅぅっ、くちゅ
、んんっ、はぁ～……はむっ、レロレロレロっ、
ちゅぱちゅぷ、くちゅ、じゅるる、はぁ、んっ、はぁ、
ちゅぷ、ちゅぅ～っ、ぺちゃ、くちゃ、ちゅぷ、ちゅ、ちゅ♥」

（左の離れた所から。）

シラユキ
「私だって……できますよ？できるんです……
そうです、私の体なんだから、私にだって……」

（右耳、有音）

ピエリーナ
「んんっ、くちゅくちゅ、くちゃ、ぺちゃ、
レロレロ、ペロペロ、ちゅ、ちゅぷちゅぱ
ちゅ、ちゅう、ちゅぱ、はむっ、くちゅ、シコシコ」

（左の離れた所から。）

シラユキ
「できた、……はず、知らないから、出来なかった、だけ……
そう、私は、悪くないもん……あいつが、悪いんだもん……
悪いのは、あいつ……」

（正面に戻る。）

ピエリーナ
「んふふぅ♪王子ぃ？そんなにシラユキを見つめてぇ……♪
僕妬いちゃうよぉ～？こんなにしてあげてるのにぃ♪」

ピエリーナ
「それじゃぁねぇ～♪感度を３０００倍にしてから、
お口でぐちゅぐちゅしてあげようかぁ～？
それならほかの女なんて見てる余裕なくなっちゃうよねぇ～♪」

（首を横にふる王子。）

ピエリーナ
「え～？怖いのぉ？だったら交換条件♪
もし堪え切れたら、僕はシラユキちゃんと王子様の愛を
真実と認めて、悪い魔女の役目をするよ～♪
体を返して、ハッピーエンドのおとぎ話のぉ、悪者みたいに消えてあげる♪」

ピエリーナ
「それなら、我慢する理由もできるし、
その魔法にかかる理由にもなるよね～♪」

（捕らわれのヒロインが主人公に応援するような感じ。必死のシラユキ。）

シラユキ
「お、王子！私たちの愛、見せてあげましょう！
絶対に、負けないでっ！私のためにっ！」

ピエリーナ
「きゃはは！
お客様が素晴らしいアドリブを入れてくれました～♪
これにて劇はクライマックス！
いよいよ感度３０００倍、フェラチオ我慢の演目に
入りま～す♪」

ピエリーナ
「こうしてこうして～♪おちんちんに塗りますはぁ♪
特別な唾液でございまぁ～す♪
すぐにご用意が整いますので、少々お待ちくださいませ～♪」

（右耳で小声で（シラユキに聞こえないような演出）

ピエリーナ「ねぇ、王子。そんなにボクのことが嫌い？
……僕だって、女の子だよ？とっても君を愛してる……
だから、僕を選んでよ……」

ピエリーナ
「ずっとずっと愛してあげる♪一生かけて犯してあげる……。
だから……」

（右耳で小声で（とても妖艶に演技して））

「我慢しなくて、いいんだよ♪」

（正面、少し下から。）

ピエリーナ
「はぁむ♪じゅぷじゅぷじゅぷっ、じゅる、じゅるるるっ！
ぺロぺロぺロッ、んんんっ、ぷはっ、はむ、ちゅぷちゅぷ、
ぺちゃぺちゃ、しゅっしゅって、しごきながら……。

んんっ、んむっ……」

シラユキ
「耐えて……耐えて王子！ぜったいに負けないでっ！」

ピエリーナ
「ずりゅりゅりゅりゅっ、じゅぽじゅぽじゅぽじゅぽっ、
はぁんっ、じゅぷじゅぷ、じゅるるっっっ、
んくっ、じゅるる、……一発目♪」

（子供の時に毎日聞かされるおとぎ話の、
最後のくだりが違う事に気づいた子供のような反応をするシラユキ。）

シラユキ
「……え？」

ピエリーナ
「じゅぷじゅぽじゅりゅ、じゅるるりゅっっ、じゅるじゅる、
ずりゅ、じゅるるずりゅりゅっっ！んっんっんっ！じゅるる、
っ！くちゅぷぷぷっ！じゅぷぷぷぷっ！んむ、んちゅ、
んちゅぅぅっっ！……二発、目♪」

（呆然として、顔を引きつらせるシラユキ。）

シラユキ
「ま、待って……どういう、こと？」

ピエリーナ
「はぁむ♪じゅるるる、ちゅ、じゅぷじゅぽ、んんっ！
んっ！んっ！はぁ、れろぉ～……三発、
レロレロレロッ、はむっ、ぐちゅぅぅっ、ぐっちゅ、
ぐっちゅ、ぐっちゅっ！
はぁっ、んんんっ、じゅるるる、
四発……まだまだいけるよねぇ～♪」

シラユキ
「お、王子？どうして？私、私は……」

ピエリーナ
「じゅぷぷぷっ！　ずりゅりゅりゅっ！　じゅぷぷぷっ！
ぺろぺろぺろっ、はぁ、はむっ！　んんっ、んぐっ、
んっんんっ」

（目を見開いて涙を流しながら叫ぶシラユキ。）

シラユキ
「私を見て王子！私はここっ！ここなのっ！
そんな淫乱に負けないでっ！
そんな嬉しそうにしないでぇぇぇっ！！！」

ピエリーナ
「んんんん〜〜〜♪♪♪はぁ、はぁ……十発目♪
本当にたくさん出たね〜♪これで、演目は終了です〜♪」

シラユキ
「あ、ああ……あああ……」

ピエリーナ
「きゃはは……！ずっとそこにいるといいよ、シラユキ。
僕が代わりに王子を愛してあげるから♪
悲劇は悲劇で終わらないと……ハッピーエンドじゃ
つまらないでしょう？」

（うっとりとした表情で、邪悪な笑みを浮かべながら
王子によりそうピエリーナ。）

ピエリーナ
「ねぇ？王子？王子は本物のシラユキとボク、どっちが好きぃ？
……うん！ボク、だよねぇ！いひひっ！嬉しいなぁ！
鏡に封印された本物よりもぉ、このボクの方がいいんだぁ！
あああああっ！王子っ！王子ぃぃっっ！ちゅっ！ちゅっ！」

（目のハイライトが消えて、絶望した顔になり、へへへっと笑うシラユキ。）

シラユキ
「わ、私の王子様、奪われちゃった……命を助けてくれた……
とっても大切な人が……他の人とセックスしてる……。
あはっ。あはははっ」

ピエリーナ
「王子ぃ♡これからもたくさんエッチしてぇ、
僕の子供をたくさん作ろうねぇ♡
きゃはは、きゃはは～～～っ♡♡♡」

シラユキ
「あはは、あはははっ！あはははははっ！！！」

5. 純潔の愛

（序盤、ピエリーナの喘ぎ声とシラユキの泣き声の素材が必要となります。
それぞれ、15秒ほどの素材を頂けると助かります。）

（ピエリーナの喘ぎ声素材）
（右耳元）

あんんんっ！んっ！んくぅぅぅっ！
あっ！ああ！くぅぅぅぅっ！
んん～っ！んっ……。んんっ！
ふーっ。ふーっ。ふーっ。
んあっ！ああっ！

（シラユキの泣き声素材）
（左側、遠くから）

ぐすっ……。うぇっ……。
ええっ……。ひくっ……。
んぐっ。あっ。あああっ。
ふ……
うぇえええええっ！
うっ……ひっく。

（ここから本編。王子と性行為しているピエリーナ。
その様子を泣きながら見るシラユキ。）
（右耳元）

ピエリーナ
「んんんっ～～～！と、止まらないよぉっ……。
王子っ、僕と一緒に、エッチなお汁、だそ？
ほら、こうやっておマンコ汁で、いじめてあげるからっ！
も、もっと、はげしくしちゃうからっ！
とっても気持ちよくしてあげちゃうからっ！」

ピエリーナ
「あんんんっ！す、すごいよぉっ！
こんなおチンチンで、愛されちゃったら……。
あぁぁぁぁん♡止まらないよぉっ！！！」

（左側、遠くから）
（このトラックのシラユキのセリフは全て「左側、遠くから」となります。）

シラユキ
「こんなの、おかしい……
こんなの、間違ってる……でも……」

シラユキ
「どうして、そんなに気持ち良さそうなの？幸せそうなの？」

（右耳元）

ピエリーナ
「もう、無理っ！おマンコ、奥の奥まで入れちゃうからぁ！
王子のおチンチン、こすりつけて、グチョグチョにしてぇっ！
あああっ！気持ちいいよぉっ！王子の立派なおチンチンで、
僕のおマンココすられてビクビクしてるぅっ！！！」

（左耳元、遠くから）

シラユキ
「私の事なんて、どうでもいいの？
こんなにひどい目に合ってるのに、目の前の快感のほうが、
王子は嬉しいの？
そんなの、酷いよ……酷すぎるよ……」

（右耳元）

ピエリーナ
「も、もっと激しく、おマンコで気持ちよくしてあげるっ！
そしたらっ！僕も気持ちよくなれるからぁっ！！！
あっ！？び、びくびくがぁっ！すごく一緒にビクビクってぇっ！
い、イっちゃうのかな！？ぼ、僕もっ！僕もぉぉぉっ！
ね？い、一緒に気持ちよくなろっ！？
僕と、初妊娠記念になるよう、一緒にピュッピュしよ！？」

（左耳元、遠くから）

シラユキ
「絶対に、王子を放さない……なにがあっても、絶対に……」

シラユキ
「絶対に、放さない……」

（右耳元）

ピエリーナ
「あんんんっ！！！すごいよぉっ！
おマンコ止まらないよぉっ！！！
ひぅっ！？い、イクっ！イっちゃうよぉぉぉっ！！！
お、王子もぉっ！全部僕の中にだしてぇっ！！！
あぁぁんんんっっっ！！！！！」

（射精音）

（ピエリーナ、正面に移動。）
（精液を受け止め、恍惚の笑みを浮かべるピエリーナ）

ピエリーナ
「……あ、はぁ……。い、イっちゃったぁ……♪」

意地悪そうな笑みを浮かべて王子の顔に近寄るピエリーナ。

ピエリーナ
「ねぇねぇ王子～♪もっと可愛くイジメてあげようかぁ～？」

ピエリーナ
「全身を、この可愛らしい体で、ぬるぬるマッサージ♪
もちろんいつも通りお客様に見せつけながらねぇ♪」

（王子を全身マッサージするピエリーナ。）

ピエリーナ
「ほ～ら？ババブちゅぱちゅぱしながら、
全身マッサージでちゅよ～♪気持ちいいでちゅか～？」

ピエリーナ
「ママだと思って、変態赤ちゃんになって、
気持ちよくなりまちょうね～♪
ほ～ら♪
全身で、おっぱいでぐちゅぐちゅ体をぬるぬるしながら～♪」

（右耳元）

ピエリーナ
「シコシコ、シコシコ、シコシコ……気持ちいいでちゅね～♪
お手手でゆっくり、シコシコ、シコシコシコシコ……
シコ、シコ……」

（左耳元）

ピエリーナ

「今度は左耳……シコシコ、シコシコ、シコシコ……。
おちんちん、どんどん大きくなってまちゅよ～？
おっぱいもチューチューしていいんでちゅよ～？
シコシコ、ちゅっちゅ♪シコシコちゅっちゅ♪
偉いでちゅね～♪かわいいでちゅね～♪」

（右耳元）

「シコシコ、シコシコ、シコシコ、シコシコぐちゅぐちゅ♪
シコシコぴゅっぴゅ♪シコシコシコシコシコシコシコ、
ぐちゅぐちゅぐちゅ♪」

（中央演技に戻します）

ピエリーナ

「あぁ、王子？僕もぉ、またしたくなっちゃったぁ♪
王子の大好きなおマンコ、させてあげるからぁ♪」

ピエリーナ
「本当に、大好き♪王子の事、大好きだよ♪」

（真面目な顔になり、上目づかいで王子を見つめるピエリーナ。）

ピエリーナ
「ちゅ……ちゅぱ……はぁ、ね？
本当の意味で、僕のことを犯してみて？
ちゃんと、心の全部で……僕に愛を、頂戴？」

ピエリーナ
「あ、あぁぁん♪あぁぁぁぁぁぁぁぁっ～～～！！！
気持ちいいよっ！すっごくいい！もっとして！
もっと激しくしてぇ……！あっ！？
あんっあんっあっあっあっ！　腰の、振り方変わって、
大きいのから小さくなってぇ！

ジュプジュプしながら、僕と王子のエッチなお汁が
一緒になってる……！
イクっ！イッちゃうよ！一緒にいこう！出して！
エッチなドロドロザーメン全部中に出して！

全部受け止めるからぁっ！大丈夫だからぁっ！！！！

あんんんんっっ～～～！！！！イくぅぅぅぅっっっっ！！！！

（射精音）

あはぁ……♪すごく、いっぱいぃ……♪

こ、こんなに出されちゃったら、王子のせいで、

おっぱい出るようになっちゃうかも♪

えっ！？ま、まだ足りないの！？

そ、そうかぁ……。もう、王子だけの僕になっても、いいかな♪

（恋人のような照れ顔になるピエリーナ。）

いいよ♪ずっとずっとこうしていようね♪

大好きだよ？王子♪

今度は腰をひねって……、んんんっ！擦れるぅ……。

あぁ、おちんちんすごいっ。

こんな先っぽだけで気持ちいいなん、てぇ……。

本当に王子と、僕の相性良すぎるよぉ♪

まだ、まだ頑張るからぁ♪

またゆっくりと……腰を、おとし、てぇぇ！

はぁぁぁっ……、はい、ったぁ……。

全部、はいっちゃったぁ……。
ま、まってっ！動かないっ、きゅうううっ！！！
ダメっ！まっ！あぁぁぁぁっっ！！！
ダメっ！このおちんちん凄いっ！イっちゃう！
んんんんっっっ！　はぁぁぁっっ！」

（射精音）

ピエリーナ
「はぁ、はぁ……王子、ありがとう……僕、とっても幸せ♪」

（少しの間。王子から笑顔いっぱいに私も幸せだと言われれ、
困惑するピエリーナ。いつものようにキャハハと笑ってごまかそうとする。）

ピエリーナ
「え？何、王子？……ど、どうしてさっ？
王子も、……幸せだなんてっ、
お、おかしいこと言っちゃって～♪きゃはは♪」

ピエリーナ
「えっ？本当に、大好きだって？で、でも僕は……っ」

（真面目な顔になるピエリーナ。）

ピエリーナ
「ただの、悪霊だよ？それに体だって、シラユキのだよ？」

ピエリーナ
「……愛して、くれるの？本当の僕のことを……？」

（だんだんと泣き顔になっていって、うれし泣きを始めるピエリーナ。）

ピエリーナ
「……ありがとう、僕、うれしい……っ」

ピエリーナ
「鏡の中からずっと見てきたんだ……
誰かが愛し合ったり、憎みあったりする姿を……
だから、憎まれたかった……嫌われてみたかった……っ」

ピエリーナ
「愛して、……ほしかったんだ……」

ピエリーナ
「ずっと一人で鏡の中にいて、寂しがってたら
シラユキのお母さんにつかまって、
いいようにされて……きたんだ。悪いことを、させられた……」

ピエリーナ
「僕も悪霊だから、人を傷つけることばかりして、
喜んでた……でもっ……」

ピエリーナ
「どこかで、人間みたいに嫌がってた。
泣けるなら泣いてみたかった……だって、僕だって！
人間だったんだから、人間、なんだから……」

ピエリーナ
「こんな風になりたかったんだ……大好きって本当の意味で、
いえる人に抱きしめられて……」

（泣き崩れながら演技）

ピエリーナ
「うぇ、ふぇぇぇ……っ」

ピエリーナ
「嬉しいよぉ……僕にも、こんなことを許して、くれる、
優しく愛して、くれる人が……
ひぅ、ふぁ、いた、なんてぇ……うぇぇ、ふぇぇぇっ！」

（泣き止み、憑き物が取れたように、純白な笑顔で王子をみるピエリーナ。）

ピエリーナ
「ひっく、んんっ……はぁ。王子のおかげで、……
僕はもう大丈夫みたい。この世から成仏できそう……。」

（発光する「天に召される」ＳＥ）

ピエリーナ
「もう、心残りなんてないよ……」

ピエリーナ
「泣かないで？最後に僕を救ってくれて、ありがとう……
……もう、そんなにがっかりしないでっ！
ボクはいつでも、キミの心の中にいるからっ」

ピエリーナ
「だからね？最後に……キス、してほしいんだ♪
お別れと、永遠の愛の誓いの……キス」

ピエリーナ
「んっ、んちゅ……ちゅ、……んはぁ……」

ピエリーナ
「大好きだよ♪これからもずっと、王子の幸せを
願っているから。

生まれ変わって、逢いに来るから。
そしたらまた……愛し合おうね？」

（消え入るようなかすれ声。
しかし、その顔はとても幸せに満ちている顔のピエリーナ。）

「さようなら……私の愛した人……」

（消滅するＳＥ）

6.　支配する愛

（シラユキのみ）
（王子の部屋でお茶を飲むシラユキと王子。優しい顔のシラユキ。）

王子？お茶が入りましたよ？
え？いつもありがとう？うふふ♪
そんなこと気にしないでくださいよ。
だって私は、あなたの妻なんですよ？
これくらい、当然ですよ♪
それにしても、また命を救われてしまいましたね……。
本当に、王子には何度お礼を言ったらいいのか、
分かりませんよ♪
でも、私はあなたの最愛の人になるべき人間ですから。
今回の試練は、
私と王子にとって、必要なものだったのでしょうね……。

（ニッコリ笑いながら王子に近づくシラユキ。）

ねぇ？王子？

（左耳元から冷酷に）

今、ピエリーナのこと考えてましたよね？

（正面に戻る。）
（目のハイライトが消え、悪そうな笑みを浮かべるシラユキ。）

わかるんですよ、私。
だって彼女の力がまだ染みついているんですから

そして私の体は、あなたの愛を何度も受けた。
精液も、キスも……。
全部体が知っているんです。
あなたが今、誰を思っているかなんて、
分かるに決まってるじゃないですか♡

王子？私は愛しているんですよ？
なのにどうしてそんな目で私を見るんですか？

（王子に近寄り、顔を覗き込むシラユキ。）

私はシラユキですよ？
ピエリーナなんて化け物は、もういないんです。
消えたんです無様に！

私はあなたの妻で！
最愛の人でしょう！？
どうして私を見てくれないんですか！？

あいつは
私を、あなたをたぶらかした悪霊ですよ！？
ただのくそ野郎ですよ！？
分かってるんですか！？？！

……ああ、まだ、残ってるんですね？
大丈夫です。私がちゃ～んとぜんぶ、
あいつが残した呪いを、溶かしてあげますから♪

まずは大好きな、耳から、犯してあげますね？

（右耳元）

んちゅ、ちゅっぱ、しゅ、じゅる、ぐちゅる、
じゅるる、ちゅるるるっ！
んんっ、もっと、よだれを含んで……♪

んちゅじゅる、んっぶちゅ、じゅるるるっ！
ぷはっ、……はぁ、ねぇ？気持ちいいでしょ？

こんなことで気持ちよくなるなんて、
あいつに教えられなきゃわかりませんでしたよ～？
どうして隠していたんですか～？

んちゅ、りゅうちゅるる、ずりゅりゅっ！
ぐっちゅ！じゅるるるっ！ぐぼっ、ちゅ、ちゅ、ちゅ～～っ！
んんっ、チュプ、ジュル、プハッ……
ンンッ、ジュルルル、んっ、んっ、んっ
チュル、ジュルルルッ、ジュプププ、ハァん……、
んんっ、チュプ、ジュル、プハッ……
ンンッ、ジュルルル、んっ、んっ、んっ、
レロレロ、ゴプ、ゴプププ、クニュクニュ、はむはむ、んっ！

んふふ♪美味しい♪気持ちいいんですか？
耳をただしゃぶられて……？
変態なんですね♪かわいいですよ？とっても愛おしい……。

今度は、反対の耳も♪

（左耳元）

ちゅるるるっつ～～～っ！じゅっぶ、ぶちゅっ！
くちゃ、ぺちゃ、くちゃ、じゅる、じゅぷじゅっぷっ！

ちゅぱ、ちゅぷぺろ、くちゅくちゅぅ～……
ぱっ、はぁむ、んむっ
ん～っぱ、ちゅぷちゅぷ、くちゅ、ぺロぺロ、れろ～
、ちゅ、ちゅぱ
はぁむ♪んっんっんっんんっ！ぐちゅるるるっ！じゅっぷぷっ！

……王子のお耳、美味しいですよ？
それに、すっごくビクビクしちゃって、可愛いです♪
もっともっとしてあげますからね～♪

ぐちゅる、じゅるるずりゅりゅっ！ぐっぽぐっぽっ！
ぐちゅるるるっ！
んっ、ぺロぺロ、ちゅ、ちゅぷ、ちゅぅっ、くちゅ、
んんっ、はぁ～……はむっレロレロレロっ、

私のほうが可愛いでしょう？
いやらしいでしょう？

そして、もう二度とあいつには会えない……。
私で思い出すしかないんですよ？
なら、お願いできますよね？
もっともっとしてください……って。

はぁむ！ジュルルッ、ジュプジュプッ、はぁっ、あんっ……、
ジュルルルッ！　んっ、んんっ！　チュパチュパ、

ピチュピチュ、んふっっ……。
レロレロ、ゴプ、ゴプププ、クニュクニュ、はむはむ、んっ！
はい♪また耳を交換です♪

（右耳元）

ずちゅるるるっ！ぺちゃ、ちゅパ♪はぁ、んんっ！
んちゅ、ちゅるる、ぺろぺろ、れろれろぉ～……。
あぁむ、んんっ、んちゅる、ずちゅるるっ！
んんんっ！……んっんっんっんっ！

可愛い王子♪
私しか愛せない王子♪
絶対に、絶対に離しませんからね？
愛しているんですから♪

（正面位置に戻る。）
（リンゴを取り出し、それを愛おしく撫でまわすシラユキ）

ほら？
愛のリンゴですよ？
お母様の力をまねて作った、愛の毒リンゴ……。
私を愛していますよね？
あいつなんか、もうどうでもいいですよね？
だから、口移しで、受け取って？

（リンゴをかじって咀嚼するシラユキ。）

んっ、んちゅ、じゅる、じゅ、じゅぷ……
んちゅ、ちゅ……はぁ、はぁ……。
唾液と唾液。リンゴの汁と汁。果実……そして、……毒。
全部混ぜあって、舐めあいましょう？うふふ♪
ほら？
もっと口を開けて？
大好きなディープキスですよ？
んちゅ、りゅちゅ、じゅっりゅっぐちゅっ！
んちゅう、ちゅく、はく、はぐ、んんんっ！
んっ、んはぁ、あ～っ、んちゅ、……。
ほらほら♪おちんちんがビクビク大きくなってる……
本当に王子はシラユキが好きなんですねぇ♪
んちゅ、ちゅぱ、はぁ、はぁ……。

（バキバキになったチンポを見つめてうっとりするシラユキ。）

うふふ♪
だらしなく我慢汁が出てきて、ズボンまで濡れてますねぇ？
破れそうなくらいに、パンパン♪

（右耳元）

ほら？ちょっと撫でるだけで、壊れた噴水みたいに……

（右耳元）（とてもいやらしく妖艶に）

なっちゃいそう……♪

（正面位置に戻る。）

うふふ♪
美味しかったですか？
えへっ！それはよかったぁ！

さぁ！愛を語り合いましょう！
言葉で！体で！呪われた心で！！！
私、ピエリーナには感謝しているんです！
だって私に足りなかったものを教えてくれたから！

（目を見開き、ゲスい笑顔で両手を広げるシラユキ。）

そう！
今抱いているこの気持ちこそが嫉妬！
お母様が私に抱いたぁ！
この悶えるようなぁ、

グチャグチャにしてやりたいような気持ちぃっ！

たまらなぁい！

王子にもぉ！この熱い気持ちを分けてあげないとぉ！

ぐっちょぐっちょって！

私のオマンコ汁と王子の精液と我慢汁で、

ゆっくりと、ねちねちと、責めてあげますね！

（挿入音）

ウフフ♪

あいつのと同じだけど、全然違うでしょう！？

私のほうが気持ちいいでしょう！？大好きでしょう！？

さ、腰を動かしてあげますからね♪

もちろんゆっくり、焦らすだけ♪

根元から、裏スジをた～っぷりとイジめて、ほぉら♪

ねっ……

今度は逆の方をオマンコの入り口で抑え込んで……。

ゆぅ～っくりと♪

何度も何度も、イケないくらいの刺激を♪

ほぉ～ら♪　どんどん固くなってるのに、

刺激はまだまだ足りないですよね～？

とってもエッチなことされてるのに～？

あはは♪泣きそうにならないでよ王子～♪

（目にハイライトがないけれど、優しく微笑むシラユキ。）

わかりましたっ♪
今度もゆっくりと……、んっ、そう……。
ゆっくりと、です……。
じょじょに、中にはいっていって……。
んはぁぁぁっっ！！！はいりましたねぇ。
さぁ、また引き抜いてあげます。
んっ、……ふぅ。また、ゆっくりと……。
んんっ！　おっきい……。

亀頭も立派だから、
これくらいゆっくりじゃないと、すぐにイっちゃうかも……♪
あんっ！……んちゅ、腰を、抜きながら、うごかしてぇ……
先っぽから、また根元まで……ゆっくり、とぉ……。

王子ぃ♪出したいですかぁ？
なら、愛してくれますよね？
あいつなんかよりも何倍も、何十回分も！

ふふっ。ちゃんと答えてくれるまで絶対に
イかせてあげませんからね？

（厳しい顔になり、ダメなペットを躾けるようにののしるシラユキ。）

ほら！早く言いなさいよ！ピエリーナなんかゴミだったって！
本当に愛していたのは私！シラユキ様だったって！
言え！言え！言え！言え！

（王子の「愛している」という言葉を聞き、一転して満面の笑みになるシラユキ。）

……はい♪
出していいですよ？

（射精音）

んはぁぁぁぁぁ♪♪♪
あはは、妊娠、確定ですね♪

よ～しよ～し……いい子ですね～。
このまま夜が明けるまで、
ずっとこうして頭を撫でていますからねぇ～♪

王子……大好きですっ。
私だけに夢中になるよう、しっかり調教してあげますからね
ふふふ、うふふふふっ